

[専門教育科目/看護の基本]

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
看護体験実習	NSP11_002	必修	1	1	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
平尾 眞智子 他	401	m.hirao	月曜日～金曜日 12:10～13:00		
授業の目的・概要	この科目は、「早期体験実習」ともいわれ、保健医療福祉の実践活動を知ることを通して、今後の自分の学修に対して意欲をもって学修を続ける動機づけのために実施される体験型学習の方法である。入学後、看護の学修（看護学概論など）を開始したばかりであるが、今学んでいることが我が国の保健医療福祉体制（地域包括ケアシステム）の中で、どのような位置づけにあるのかを確認する。また、自分自身が今後看護職を目指すために身に付ける知識・技術に対し、どのように学修を重ねていく必要があるか考えることができることを目的にしている。Teamsを活用したオンラインでの実習を行う。				
学習上の助言	看護学概論で、学んだ「看護とは」「社会の変化と看護の役割機能」「保健・医療・福祉の連携」について復習し、さらに地域包括ケアシステムについて調べておくこと効果的な学修につながる。				
教科書	看護学生してはいけないケースファイル—臨地実習禁忌集—/編：下司 映一 他/丸善出版/2013				
参考書	必要時紹介する。				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	地域包括ケアシステムの概要を説明できる	NS(2)(3)			
②	地域の高齢者が元気に活動する様子を知り、健康増進や介護予防の必要性を理解できる	NS(1)(2)(3)			
③	健康増進及び介護予防、医療を必要とする対象者に関わる地域の看護職の役割を説明できる	NS(2)(3)(4)			
④	地域における病院の役割及び地域連携室の役割について説明できる	NS(2)(3)(4)			
⑤	高齢者施設の種類とその役割機能について説明できる	NS(2)(3)(4)			
⑥	看護活動の場及び対象者の多様性について説明できる	NS(1)～(4)			
⑦	看護職を目指すためにどのような学修を重ねていく必要があるか考えることができる	NS(5)			
授 業 計 画					
1. 実習期間および時間：1年次前期 1週間（月～金）45時間					
2. 方法（実習展開と日程）Teamsの活用によるオンライン実習					
	月	火	水	木	金
午前	対面およびオンラインによる実習オリエンテーション (実習前週に半日登校)	地域における看護職の役割機能について講義 (動画視聴) 1.市町村保健師の活動 2.訪問看護師の活動	看護領域の紹介 (講義) 地域における病院の役割について講義 (動画視聴)	高齢者施設に関する講義 (動画視聴)	学習成果発表 個人課題・グループワーク
午後	「地域包括ケアシステムについて」講義 (動画視聴) 課題学習	地域の高齢者の活動、介護予防体操の体験 (DVD 視聴)	課題学習（事例シミュレーション） 地域連携室の活動について講義 (動画視聴)	高齢者の理解と看護的ケアについて 講義（動画視聴） 視聴覚教材による学習 (障害児への看護)	

[専門教育科目/看護の基本]

学習課題・学習時間（時間）							
1. 実習オリエンテーション（対面およびオンラインにて実施） 実習前に時間を確保し、実習の位置づけ・実習目的・目標・倫理等について説明を行う。							
2. 課題学習および日々の実習記録 指示された課題について取り組み、学びや考えたことをまとめる。							
3. 実習のまとめレポート 全ての実習終了後、自分の考えをレポートにまとめる。 必要時間： 6時間							
達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポータル	その他	合計
		0	50	20	0	30	100
総合力指標	知識・技術力	0	5	0	0	5	10
	思考・推論・創造する力	0	15	0	0	10	25
	協調性・リーダーシップ	0	0	5	0	5	10
	発表・表現伝達する力	0	10	5	0	0	15
	コミュニケーション力	0	0	5	0	0	5
	取組みの姿勢・意欲	0	15	5	0	5	25
	問題を発見・解決する力	0	5	0	0	5	10
評価のポイント						フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点				テーマに基づいた内容であることを確認し、コメントする。	
レポート	①	✓	実習のまとめとして、実習終了後にレポートを提出する。テーマおよび字数等の様式など詳細については、実習オリエンテーション時に配布する実習要項を用い説明する。				
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
	⑦	✓					
成果発表	①	✓	実習を通して体験したことや感じたことをグループで話し合い、学びや今後の学修への課題をまとめる。その後、全体で発表する。				
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
	⑦	✓					
ポータル	①		グループ発表内容に助言を行う。				
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
	⑦						
その他	①		実習における姿勢や態度については、日々の課題学習や記録への取り組みなどを含めて総合的に評価する。実習前から自己の健康管理を行い実習に臨むこと。				
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
	⑦	✓					
備 考							
担当教員：平尾眞智子、山崎洋子、石野徳子、望月宗一郎、藤井充、窪川理英、小林美雪、中溝道子、溝口孝美、森川三郎、山田真衣、堀口まり子、佐野宏一朗、田中深雪、渡邊美樹、伊丹幸子、久島萌、山崎さやか、吉岡陸世							
この科目では、これから学修していく看護学を広い視野で捉え、看護を必要とする人々のニーズを肌で感じ取りながら、みなさんが今後の大学での学修意欲を高められることを目指しています。初めての实習で緊張すると思いますが、積極的に自分から学ぶ姿勢を身に付けてほしいと思います。							
今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスを変更する可能性があります。							